

活動紹介

NPO 法人千葉県森林インストラクター会

講座名	ステップアップ講座「未来をひらく木材復活ゲーム」		
開催日時	2024年 2月 22日(木)	18時45分 ~	20時45分
開催場所	船橋市中央公民館 第二集会室	FIC 参加者	10名

講師は西河内ひとみさん。FICは「ちばSDGsパートナー」として千葉県に登録されている。講師はFICのSDGsを推進して活躍されている。今回はSDGsの精神を知るための楽しいボードゲームとして、木材復活ゲームを紹介された。参加者の自己紹介の後、生態系やカーボンニュートラルの話がされた。そして今回の木材復活ゲームの説明。

正式名は「Get The Point」。まず始める前に参加者の現在の気持ちを1人1人に聞く。皆さん、これから始まるゲームに興味津々であった。このゲームのやり方は4人1組で、資源カードを使って生活用品を作っていくゲーム。順番に1人1枚ずつ生活用品カードを選ぶ。そのカードにはその生活用品を作るのに必要な資源カードの枚数が書かれているので、必要な資源カードをカード置き場から取って、ゴミ箱に入れる。生活用品は家、車、家具、シャツ、携帯電話、お寿司、サラダなど。資源は、再生可能資源(木材、植物、動物)と再生不能資源(化石燃料、レアメタル、鉄)に分かれている。各班4人に1周回るたびに、再生可能な生物資源については、残っている枚数の2倍をゴミ箱から出し、再びカード置き場に復活させて置き使うことができる。資源カードを使い切った時点でゲーム終了。各自、自分の獲得した生活用品の合計ポイントで勝敗を楽しむ。



第1ゲームでは、一般的には5周位回ると資源が無くなることが多い。次の第2ゲームでは、ルールを変更。第1ゲームでは個人戦だったが、第2ゲームでは団体戦。さらに、10周回っても次の周へと持続できる資源カードが残っていることが条件となった。メンバー全員の合計ポイントが最も多く豊かに過ごしたチームの優勝。まずはチーム内で相談して作戦を立て、順番も決めた後、第2番目のゲームを開始した。和気あいあいとゲームが進行した。1周終わる毎にスクリーンで「クライシス」(マイナス面)と「サステナブル」(プラス面)のできごとが時々出現。これは現代の地球で起こり得る資源の争奪戦やリサイクル運動等のSDGsに関連する事象をポイント取得に反映したものだ。2チームとも10周維持することができ、かなり高得点であった。参加者の賢くチームワークの良い点が浮き彫りになった。次に、このゲームの本質についての解説。1ゲーム目は自分が豊かになるのが目標だったが、2ゲーム目はみんなで豊かになるのが目標。これはSDGsを意味し、行動を変えて未来を変えようというもの。

世界全体で平均すると人々は、地球1.7個分の暮らしをしていると言われている。日本は2.8個。これはエコロジカルフットプリント(人間がどれだけ地球環境に負荷をかけているか)と呼ばれる。地球1個より多く使っている資源は、次の世代が持続可能であるために残しておくはずの分。これを分かり易くしたのが、このゲームである。具体的に、アジア産パーム油で作られたであろう身近なお菓子を食することで、私たちが2.8個分の暮らしをしていることも実感した。RSPOマーク付きエコなお菓子も確認。

今回のゲームのカードのやり取りの中で自分から気付いていけるSDGs17の目標のいくつかがある。それは「①貧困をなくそう」「⑩人や国の不平等をなくそう」「⑪パートナーシップで目標を達成しよう。」である。実際にゲームを進める中で、第2ゲームでは、他の人の状態への気遣いがいたる場面で見受けられた。持続可能であるためのシステムの早急な変更が課題となっていることへの提言とこの部分から危険にさらされていくという提唱でもある。

また、現在の生態系ピラミッドの図(林将之制作)も確認。従来のピラミッドと比べて一番異なる点は、頂上に存在するのは猛禽類だけではなく、隣に人間が大きく幅を広げている点であった。参加者のゲームについての感想を聞いた後、最後に、2050カーボンニュートラルのために経産省が戦略を立て企業を動かすように変わってきていることを紹介。サーキュラーエコミーやネイチャーポジティブなどの言葉も使われるようになってきている。自然環境と経済とのバランスを工夫し、持続可能になるための言葉である。バイオ技術・産業の育成がなされている。木材由来の分解可能なプラスチックやフィルムにも期待が寄せられている。セルロースナノファイバーの普及・市場拡大戦略も作られ、この産業への注目をけん引してきた。

【参加者の感想】「SDGsの良い教材であると思った」「ゲームを通して資源の使い方の大切さを学べて良かった」「小学生がするゲームとしてはとても面白いと思った」「難易度の高いカードをセットするべきだった。」という感想が寄せられた。

FIC 講師 西河内 ひとみ

**地球1個分の暮らし
必要量と消費量の関係**
□2017年には地球が1.7個分必要

